学校番号	117

令和３年度　芸術科(書道)

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「書Ⅲ」（光村図書出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書の歴史と文化を深く知り、個性を生かした作品制作(卒業制作)を行います。①漢字の書の作品、②仮名の書の作品、③漢字仮名交じりの書の作品、④篆刻・刻字の作品の中から 2 つ選んで制作します。
・自己の作品のプレゼンテーションや作品展等のフィールドワークを通じて、表現力・企画力・発表力・鑑賞力も高めます。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動を通して、書の伝統と文化を豊かにとらえ、見方や考え方を深め、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に自己の価値観に基づいて取り組もうとする。	書のよさや美しさを感性や想像力を働かせて感じ取り、独創的な意図に基づいて構想し、個性的で創造的な表現を工夫している。	個性的で創造的な書表現をするために、全能力と個性を生かし、独創的でより効果的な表現の技能を身につけ表している。	書作品などの表現の工夫と書の効用や書の伝統と文化についての理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて読み取り、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	書の歴史と文化	・漢字の書のフィールドワーク 篆・隷・楷・行・草の五体の総復習 古典臨書の総まとめ 雅印について ・仮名の書のフィールドワーク 仮名の作品形式 古筆臨書の総まとめ 落款について	○	○	○	○	a:書が、各時代の生活や諸文化と結びつきながら発展し、人々の心に潤いを与えてきたことを理解しようとしている。 b:様々な書の古典・古筆の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。主体的に構想を具体化し、書風や線質、全体の構成などを工夫している。 c:様々な書の古典・古筆の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。主体的に構想を具体化し、書風や線質、全体の構成などを工夫することができる。 d:書が、長い歴史に裏打ちされた東洋独自の文化と高い精神性をもつ芸術であることを理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
2学期	卒業制作	・①漢字の書、 ②仮名の書、 ③漢字仮名交じりの書、 ④篆刻・刻字 より２つ選択して作品を制作	○	○	○		a:思いと言葉と書の関係を深く理解しようとしている。自己の感興や意図を実現するため、主体的に表現の構想を具体化しようとしている。 b:言葉を効果的に表現する用具・用材の用い方、書風や線質および全体の構成を考え、個性的な表現を工夫している。 c:言葉を効果的に表現する用具・用材の用い方、書風や線質および全体の構成を考え、個性的な表現を工夫することができる。 d:思いと言葉と書の関係について深く理解し、書によって思いを伝えることができることを理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

3 学 期	作品発表と鑑賞	・作品鑑賞会 プレゼンテーション	○			○	a:書の美と表現効果を味わい、積極的に鑑賞しようとしている。書の伝統と文化を、作品制作を通じて現代社会に適切に生かそうとしている。 d:書の美を構成する要素を理解している。作品を鑑賞して感じたことを他者に伝えたり、他者の意見をもとに、自らの鑑賞を深めることができる。書の伝統と文化を理解し、制作した書作品を味わいあうことによって、現代における書の意義について考察している。	レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。